

新居浜工業高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	シニア・インターンシップ	
科目基礎情報					
科目番号	620125	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実習	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子工学専攻	対象学年	専1		
開設期	集中	週時間数			
教科書/教材	(なし)				
担当教員	加藤 茂				
到達目標					
1. これまでに学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを体験すること。 2. 安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を認識すること。 3. 実習内容やそこでの社会的経験を発表し、的確な質疑応答ができること。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	これまでに学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを十分に体験できた。	これまでに学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを体験できた。	これまでに学んだ知識や実験技術を実社会で生かすために、何を身につけておかなければならないかを体験できなかった。		
評価項目2	安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を認識し実行できる。	安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を認識できる。	安全や環境に対する意識を高め、技術者としてのモラルや責任感、チームワークを支える意思伝達能力の重要性を認識できない。		
評価項目3	実習内容やそこでの社会的経験を発表し、的確な質疑応答ができる。	実習内容やそこでの社会的経験を発表し、簡単な質疑応答ができる。	実習内容やそこでの社会的経験を発表し、的確な質疑応答することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
自然科学および複合的な工学の知識 (A) 専門知識 (B) システムデザイン能力 (C) コミュニケーション能力 (E)					
教育方法等					
概要	企業、研究所、官公庁等の実社会で実習する体験を通じて、組織の一員としてのマナー、社会人としての責任感、技術者としての基本的姿勢を修得させ、実習体験で得た成果を今後の学習（特に特別研究）に生かすことを目標としている。				
授業の進め方・方法	1. 原則として連続する2週間以上の期間、学外で実習する。 2. 実習内容は、製造・生産現場での業務に限定せず、研究機関、大学研究室などでの業務を体験する。 3. 各自が記録した業務日誌と一連の実習を総括した報告書を提出する。 4. 学外実習報告会において実習内容を発表する。				
注意点	必修科目ではないが、必ず参加することを強く勧めている。実施に当たっては専攻主任または特別研究担当教官と緊密に連絡を取り合って実施すること。実習期間中は技術、センス等の吸収につとめ、学校で習う知識と、広い意味での現場での実際との違いをいろいろな角度から感じて欲しい。それをばねにして、今後の勉学に励んで欲しい。また、各自シニアインターンシップ先について、必ずその業務内容、製品、研究内容などについて事前学習を行いレポートを提出すること。また、マナー講習会への参加も必要である。本科で修得してきた各種実験科目における実験技術や知識などの素養が予め必要とされるのは勿論、本科で学んだインターンシップ、技術者倫理、経営工学と関連が深い。				
本科目の区分					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			

4thQ	9週		
	10週		
	11週		
	12週		
	13週		
	14週		
	15週		
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
			評価書、日誌・報告書、報告会		合計
総合評価割合			100		100
基礎的能力			0		0
専門的能力			0		0
分野横断的能力			100		100